

とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

🔄 イントロダクション 🔄

とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

About



県庁内の各部局からは独立した常設・専任の組織 ※ 2023年7月28日発足



20～30代前半の若手職員6名のみで構成(課長級はおらず、係長・主事のみ)

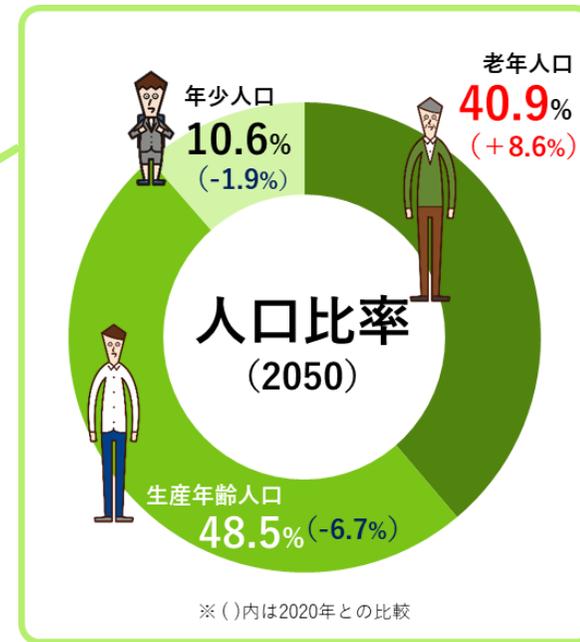
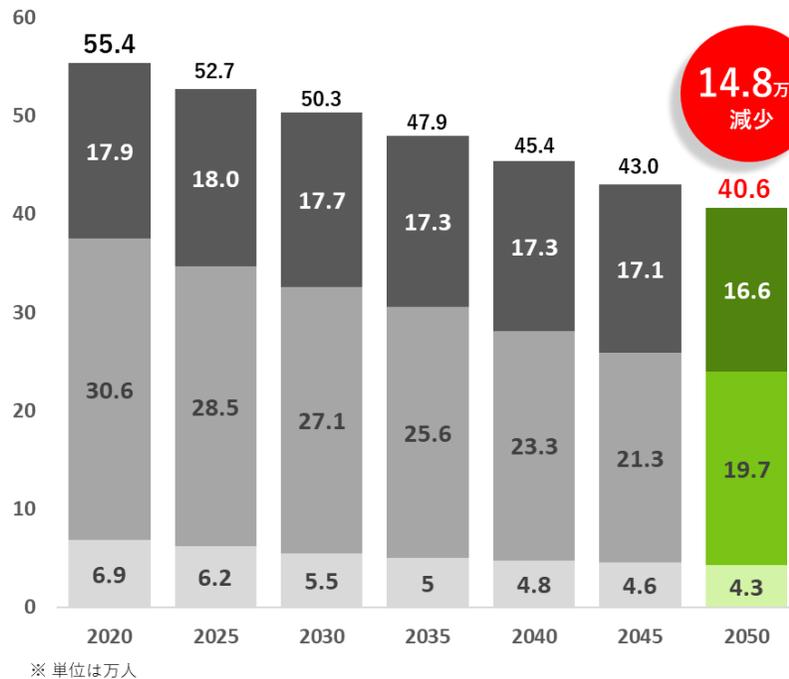


若者世代の視点を活かし、地域課題に対応する新政策を立案・実行する

発足趣旨

なぜ「とっとり未来創造タスクフォース」が必要なのか

人口減少・少子高齢化が加速度的に進行する中、
当事者世代である20～30代の意見が政策立案に重要との考えから発足



移住・定住 や 出会い・出産・子育て をはじめとした 人口減少対策に関する施策などの県政の喫緊課題を
“若者世代の視点”で検討・提案・施策立案する

30年後の鳥取県を創る

鳥取県の人口のうち、30代までの割合は約34%。

若年層の声はどうしても県政に届きづらいのが鳥取県の実態です。

一方で仕事、出産や子育て、そして地域づくりなどで中心的な役割を果たしていく
私たちのような若い世代は多くの課題を抱えており、
これからも人口減少が進む地域の中で様々な問題に直面することが予想されます。

この先もこの地域で長く暮らしていく20代～30代の私たち6人で
若い方の声を吸い上げ、より長期的な視野を持った政策を企画し、実行していく。
社会が大きく変化していく中でも暮らしやすい、魅力のある鳥取県を形作るために活動していきます。

とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

官民の若手組織

タスクフォースと若者活躍局

県庁の若手組織である「とっとり未来創造タスクフォース」と
県内から集まった39歳以下のメンバーで構成される「とっとり若者活躍局」が存在

とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

メンバー：20代～30代前半の県職員
(発足 2023年7月28日)



とっとり若者活躍局

メンバー：公募で集まった高校生～30代の県民
(発足 2023年8月20日)



「官」と「民」の若者が集まる2つの組織が
両輪となって連携・補完しながら、県政に若者の視点を注入していく

アウトプット

タスクフォースは何を行うのか

政策提案



人口減少対策や庁内改革を中心に
他部局に対する提言を行う

直営事業



部局を跨るものや長期的な視点を持つ
取組をタスクフォースが独自で実施

いずれのアウトプットも主に**予算・組織改正等への反映**を目指す

※ 予算に関わらず実施できるものは随時実行

政策提案

タスクフォース×若者活躍局による県知事への政策提案会(毎年秋頃)



「とっとり未来創造タスクフォース」と「とっとり若者活躍局」が
知事に対して、主に次年度以降に県が行うべき施策等について直接提案



令和6年度
若者政策提案書

とっとり未来創造タスクフォース
MIRAI SOZO TASKFORCE
とっとり若者活躍局

ヒアリング・調査等を通じて練り上げた
社会減・自然減対策等の施策を取りまとめ

1. 移住・定住、関係人口創出 に関する提案

I 移住・定住

提案内容(主な関係部局: 輝く鳥取創造本部、教育委員会)

テーマ: 県外に出ても繋がる! Uターン検討者増加に向けた鳥取県ネットワークの再構築

(1) ローカルメディアと連携した保護者・家族向けUターン情報発信

直接的な情報のリーチが難しい県外在住鳥取県出身学生等へのアプローチとして、学生にとっても信頼できる相談相手として選ばれることが多い「保護者・家族」を介する形で就職・移住情報の周知を進めるべく、ターゲット層に対して影響力の大きい地域メディアと連携した新たな情報発信を行う。

(2) 学生コーディネーターを起点とした県外学生コミュニティ形成

「とっとり若者・Uターン定住戦略本部」の動きの中で検討されている、県外在住の鳥取県出身学生と鳥取県との間のハブとしての役割を果たす「学生コーディネーター」を中心として、進学を機に県外に転出した学生が鳥取県との繋がりを維持し、将来のUターンにもつながる仕組みづくりを、学生が参加しやすいコミュニティ形成によって進めていく。併せて、本コミュニティにおける情報発信・交流機能を果たすべく、「とりふる」の機能強化を行う。

(※)とりふる: 主に県外在住者向けに鳥取県内の就活や移住イベントなどに関する情報を発信する鳥取県公式アプリ

提案内容(事業・制度など)については、
次年度以降の**予算・組織体制等に反映**

R6 政策提案における実績

予算への反映

8件

※前年度5件

制度等への反映

2件

※前年度1件



これまでの実績①

提案の主な事例：人口減少対策関連

若者Uターン・定住推進機能の強化

課題意識

学生・児童を将来的なUターン予備軍として捉え、地元への愛着を高めたり、地元企業の認知拡大を促進するための動きが重要



実現した政策

「とっとり若者Uターン・定住戦略本部」の新設

教育委員会や産学の関係機関も参画する”若者のUターン・定住促進”に向けた組織を新たに設置



県外での若者コミュニティの形成



鳥取県ゆかりの学生たちが中心となって100名規模の交流イベント「鳥縁祭」が東京にて開催

関係人ロツール「とりふる」の強化



LINE化によりさらに使いやすく、オンライン上でのコミュニティ交流や定期的な情報発信を展開

ライフステージに応じた少子化対策の訴求

課題意識

本県が注力している子育て支援施策はもちろん、出会い・結婚支援施策の利用促進のため、ターゲットに応じた情報発信の強化・工夫が必要



実現した政策

「シン・子育て王国とっとりサイト」の再構築



シンプルで見やすく、必要な情報が集約されたサイト構成への改修検討がスタート

※画面はイメージです

婚活支援サービス「えんトリー」における成婚事例の周知



えんトリーのサポートを受けて結婚された夫婦のリアルな体験談等を集め、SNS等で発信する

これまでの実績②

庁内改革関連:若手職員による県庁働き方改革緊急対策チーム



チームの概要

地方創生2.0基本構想の柱である「安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生」を実現すべく、地方のモデルとなる若者・女性が働きやすい職場づくりを県庁から議論・実践するために、令和7年1月にタスクフォースが立ち上げ。

<チームにおける主な提案内容>

- ◆ 一定の会計年度任用職員について短時間勤務による正職員導入
- ◆ 選択的週休3日制・在宅勤務の拡充、地域に飛び出す公務員の副業推進
- ◆ 子育て部分休暇の対象年齢拡大
- ◆ 在宅勤務日数が多い職員への負担軽減のための手当支給



<その他>

育休取得者の同僚職員への手当支給、TPOに合わせた服装の柔軟化 等

特定の職種の人材確保のため「鳥取方式短時間勤務正職員」を緊急に導入(新条例)

特定の資格を要する職種(看護師、保育士)について、育児等の事情による短時間勤務希望者を対象とした人材確保のための緊急措置として、鳥取方式による短時間勤務正職員の制度を創設
(「働き方支援休暇」を包括的に認め、週30時間勤務を選択できる新たな制度)

勤務時間条例改正

選択的週休3日制 育児・介護職員のみ → 全職員へ (フレックスタイム職員の休憩時間も柔軟化)
子育て部分休暇 小学校3年生まで → 中学校3年生まで (障がいのある子は高校3年生まで)

給与条例改正

在宅勤務手当創設 (月10日超を在宅勤務する場合に支給)

その他、「フレックスタイム制度の改良」、「軽装化に向けた服装基準ガイドラインの策定」をはじめとした多くの提案項目が実現

これまでの実績③

提案の主な事例(庁内改革関連:その他)

オフィス環境の整備

課題意識

職員が交流したり、集中して仕事する
スペースが普段の執務室以外にない



実現した政策

「コミュニケーションスペース」の新設



本庁舎8階に新たなスペースを設置
今後はさらなる利活用策を検討

新採育成制度の改革

課題意識

既存の新採サポーター制度では、いわゆる
「配属ガチャ」により成長に差が生じやすい



実現した政策

「新採メンター」の配置



新採育成を業務として行う新採メンターを新たに配置し、
複数の新採職員への助言や業務面のサポートを行うことに

これまでの実績④

タスクフォース直営事業(タスクフォースと語る！未来創造ラジオ)



県内で活躍する若手世代の姿を紹介するとともに、
若い世代と鳥取の未来に向けたアイデアを出し合うラジオ番組を企画・放送



放送スケジュール

	FM TOTTORI RADJO BIRD 82.5fm	DARAZ FM 79.8MHz
Tue	13:15~13:45	-
Fri	19:00~19:30	10:00~11:00
Sat	11:00~11:30	09:00~09:30
Sun	13:30~14:00	13:30~14:00

これまでのゲスト属性

とっとり若者活躍局メンバー、県内大学生、子育て支援団体、移住定住支援団体、公共交通事業者(鉄道・タクシー)、農家、若手起業家、メディア関係者 等

スピノフイベント



日時・場所

2024年11月16日(土) 13:30-16:00 @丸由百貨店5F トットリプレイス

内容

- トークセッション&ラジオ公開収録: 9名のゲストが①交流②食③仕事をテーマにトーク
- 飲食店によるブース出店: 3店舗が出店(ラーメン、クラフトコーラ、サーターアンダギー)



R7からはゲストとともに、R6に作成した未来予想図を考察していくコーナーがスタート
また、県内外のリスナーに広く周知していくためポッドキャスト(🎧 Spotify)での配信を開始

これまでの実績⑤

タスクフォース直営事業(U35交流会)



県内において繋がる機会の少ない20～30代の若手世代が、
所属する企業・団体の垣根を越えて交流できるイベントを県内各地で開催



若手社員が **つながる** U35交流会



R6までの開催実績

県内開催回数：東部2回、西部2回、中部2回

累計参加人数：214人(平均年齢 28歳)

※この他、若者世代の関係人口創出を目的に、東京都内でも1回開催(参加人数31人)

所属先の属性

金融、不動産、教育、医療、観光、製造、建設、メディア ほか

参加者の声

- ・展示イベント主催者と出会えたことで、展覧会出展に繋がった(イラストレーター)
- ・プログラマーの方にHP製作を依頼することになった(テレビ局勤務)
- ・親しいお付き合いに繋がる出会いのきっかけとなった(20代女性)
- ・若者コミュニティに参加するきっかけとなった(30代男性)

企画・運営協力いただいた企業・団体



R7からは**実施回数を大幅に増やして実施(12回程度を想定)**
企業・団体等とも連携しながら、県内各地での若者世代の交流の場を創出していく

これまでの実績⑥

タスクフォース直営事業(とっとり未来予想図プロジェクト)

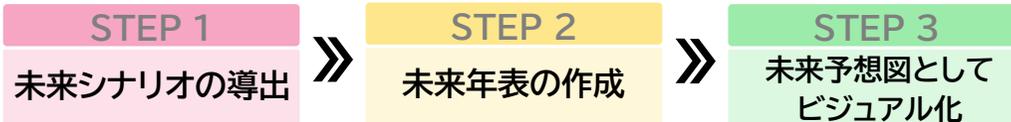


県内の若手世代とともに未来の鳥取県のあるべき姿を ”30年後の未来予想図”として描き、活用していくプロジェクト



実施フロー

三菱電機が持つ「未来価値洞察®」における未来シナリオの内容や三菱UFJリサーチ&コンサルティングが持つ各種データを活用し、本県独自の未来予想図を構築



未来予想図の活用手法

県庁において、現在の延長線上では検討しえない新たな政策の検討資料として活用するほか、若年層に地域と自分の未来について考えてもらうためのヒントとしての活用を進める

これまでの主な政策立案手法
既存課題に対応する
「積み上げ型」

未来予想図による政策立案手法
理想像からの
「バックキャスト型」



R7は完成した未来予想図のさらなるブラッシュアップとともに、成果物の活用(政策立案・探究学習用教材の作成等)を進めていく

公式 SNS

フォロー & いいね をお願いします！



note



とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

APPENDIX

補足説明・各種データ

とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

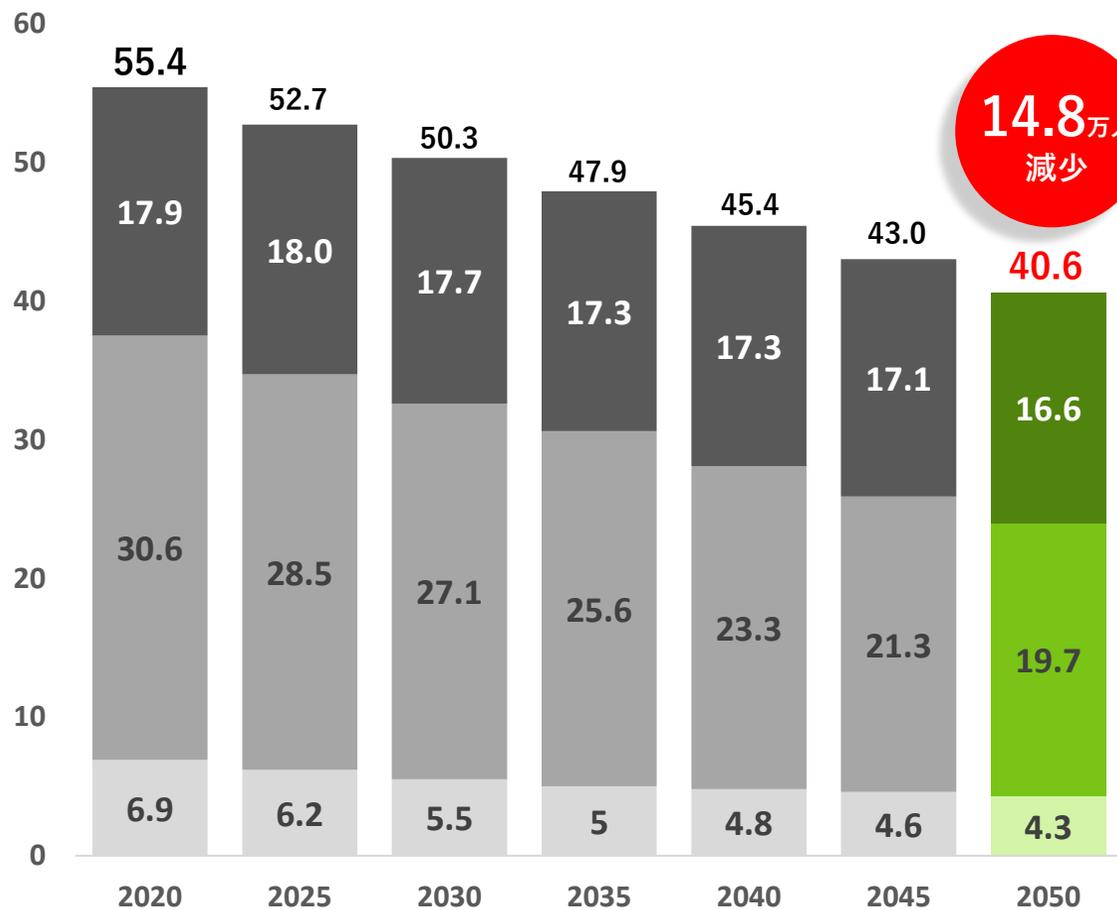
30年後の姿をイメージしたとき
鳥取県が抱える最も大きな課題ってなんだろう？



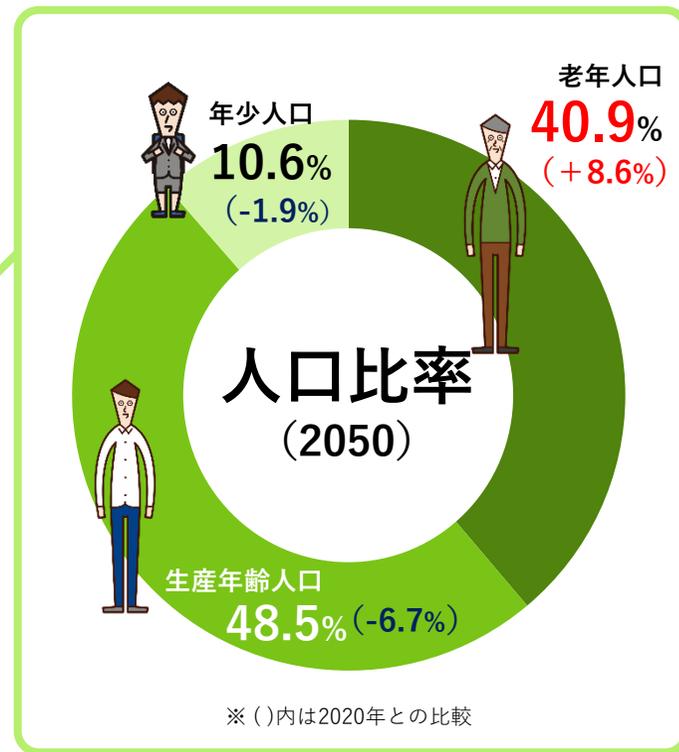
人口の減少



鳥取県の人口の将来推計



14.8万人
減少



※ 単位は万人

※ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2023)

人口が減ると何が起こるのか？

+ 人口減少により起こり得ること

社会保障制度



少人数の若者で多くの高齢者を支える必要

行政サービス



維持コストがこれまで以上に上がってしまう

自治体の税収



行政サービスを維持できる税収が不足

民間サービス



生活に必要なお店・サービスが廃業・撤退

経済・産業



魅力のある働き口が少なくなってしまう

地域の賑わい



地域のコミュニティ・活力が喪失する

人口の急激な減少という変化が
地域に当たり前にあったものを失わせる可能性



自然増減

「出生数」と「死亡数」の差

(対応する政策の例)

- ✓ 出産・子育てに関する政策
- ✓ 出会い・結婚を支援する政策



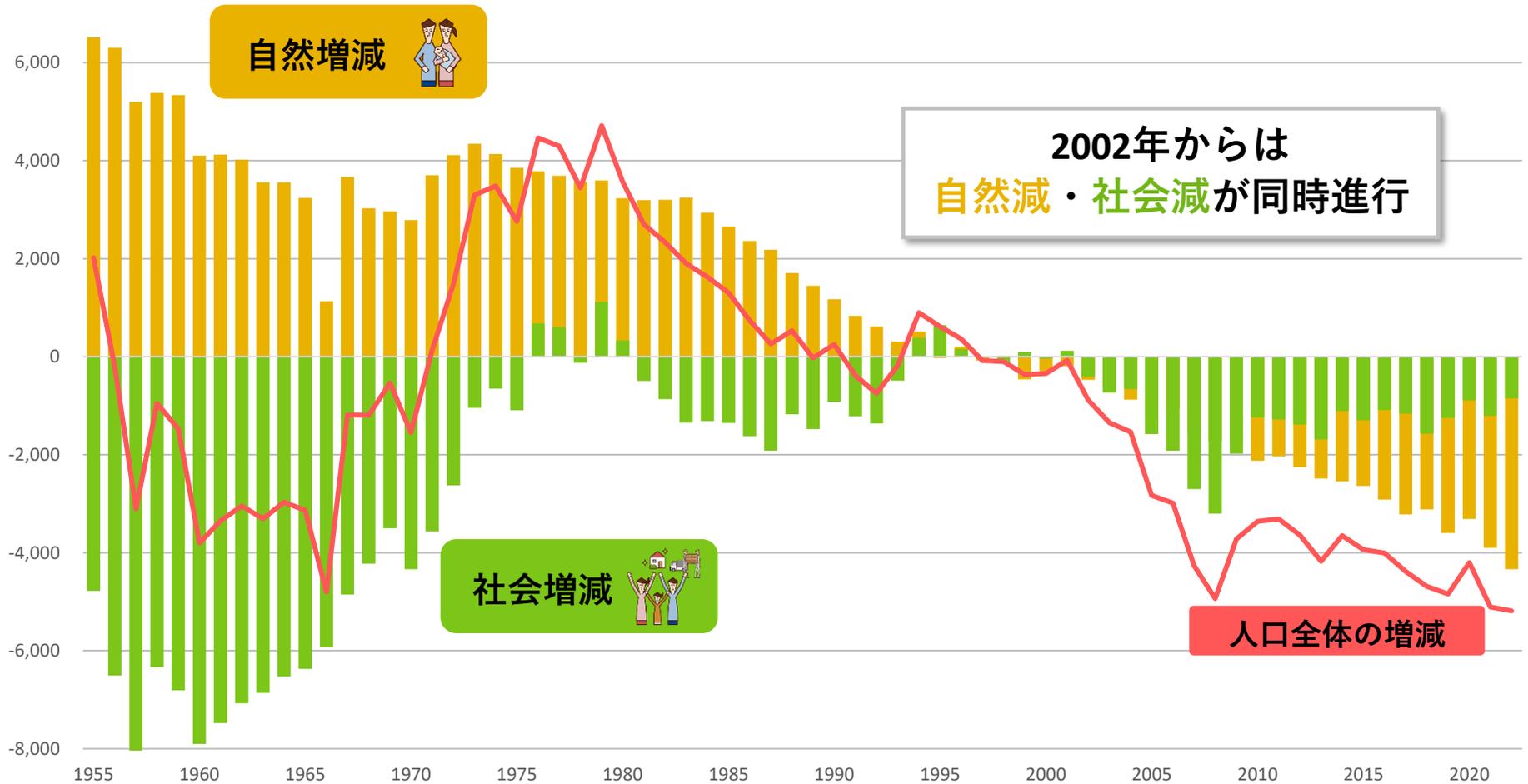
社会増減

「転入者数」と「転出者数」の差

(対応する政策の例)

- ✓ 移住促進に関する政策
- ✓ 転出抑制・定住を支援する政策

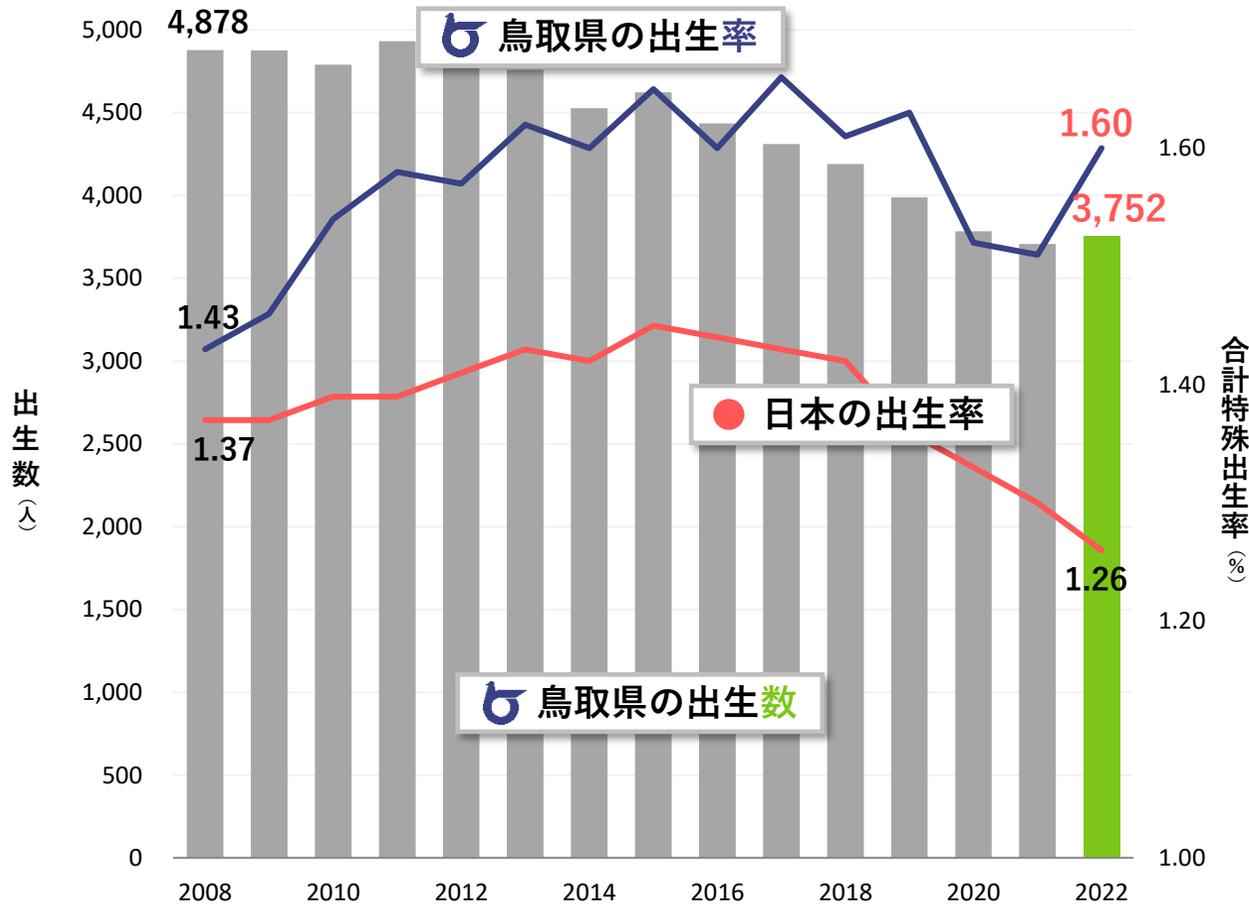
鳥取県の人口動態の推移



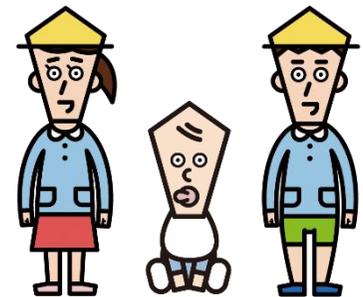
※ 単位は人

※ 鳥取県統計課「鳥取県人口移動調査」(令和4年1月～12月)

自然増減：出生数・出生率の推移

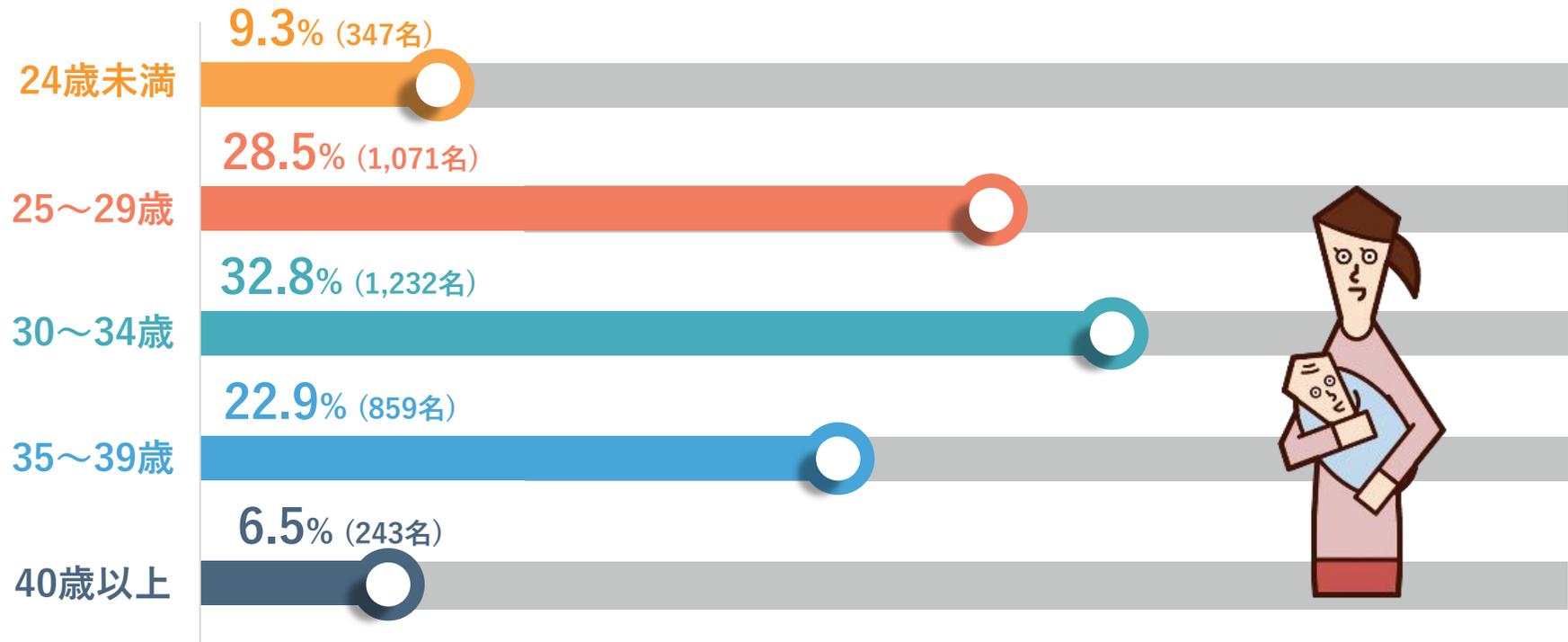


出生率は若干回復しているが
14年間で出生数が1,000人超減少



自然増減：出産・子育て①

母親の年齢別出生数（2022）



自然増減：出産・子育て②

出産・多産を躊躇する理由（2022）

1位 経済的負担 64.6%



2位 仕事と子育ての両立困難 43.3%



3位 子育ての肉体的・精神的な負担 35.4%



出生順位の割合

第3子
24.1%
(+1.1%)



第1子
39.8%
(-1.7%)



2022

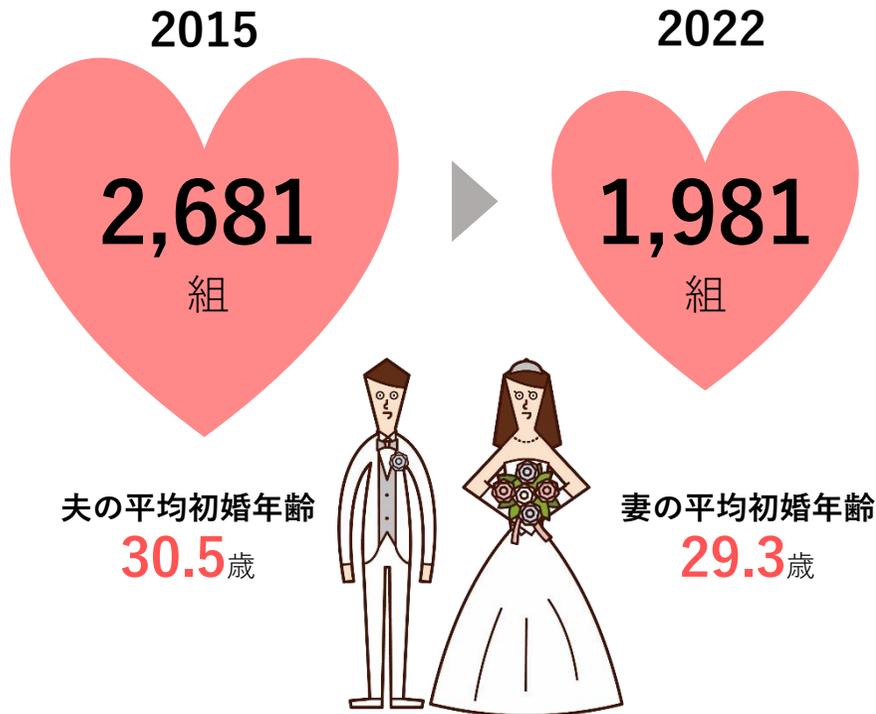
第2子
36.1%
(+0.6%)



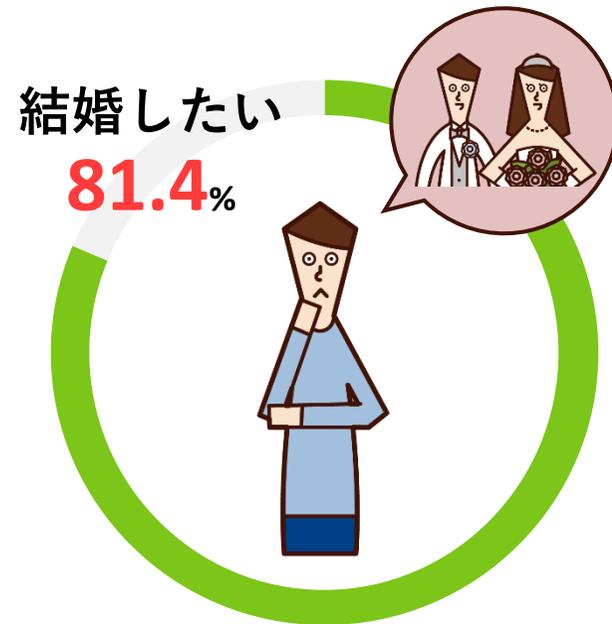
※（）内は前年との比較

自然増減：出会い・結婚

婚姻数の変化



独身者の結婚に対する考え

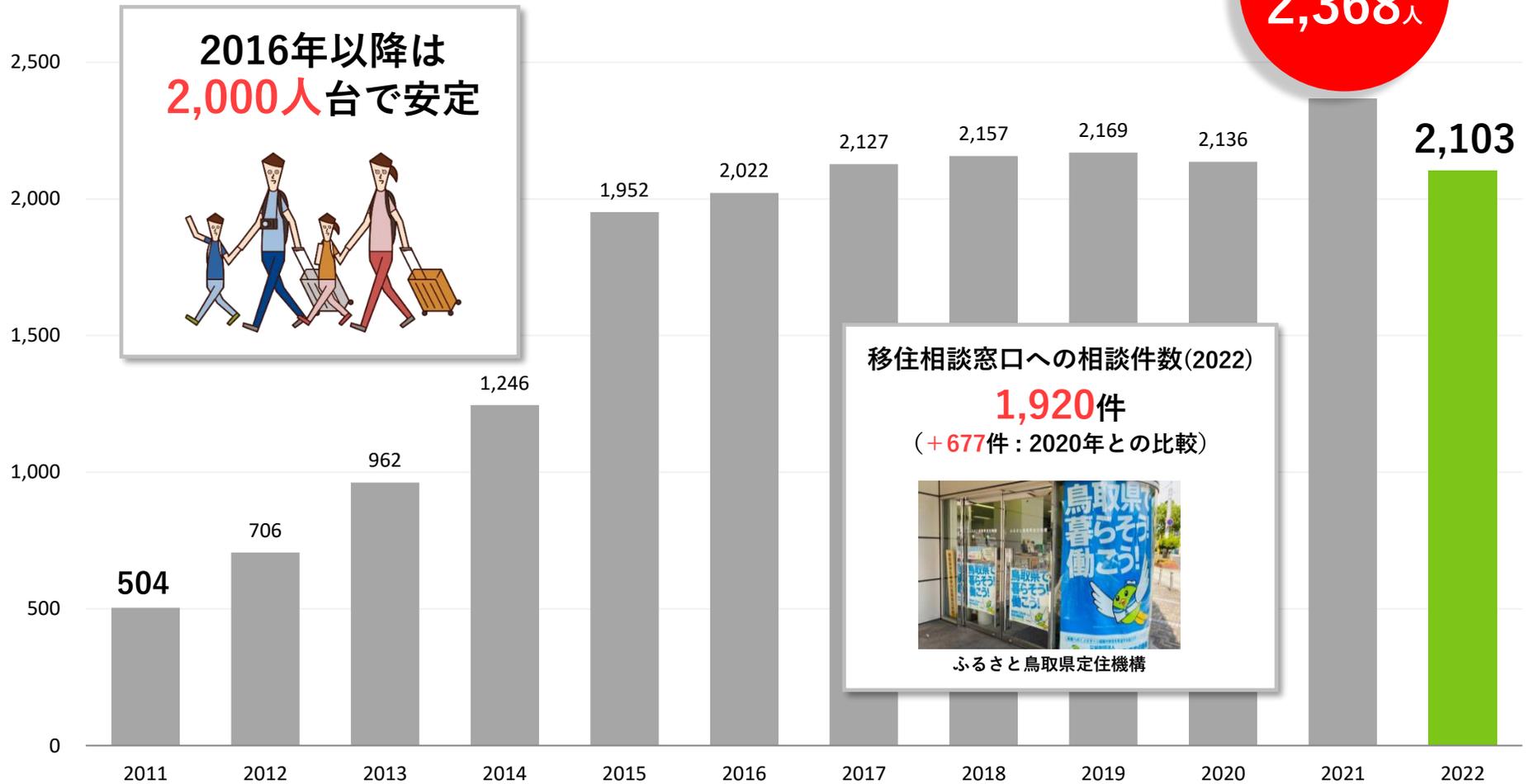


独身者が結婚していない理由

1位 **適当な相手がないから 55.9%**

社会増減：移住者数の推移

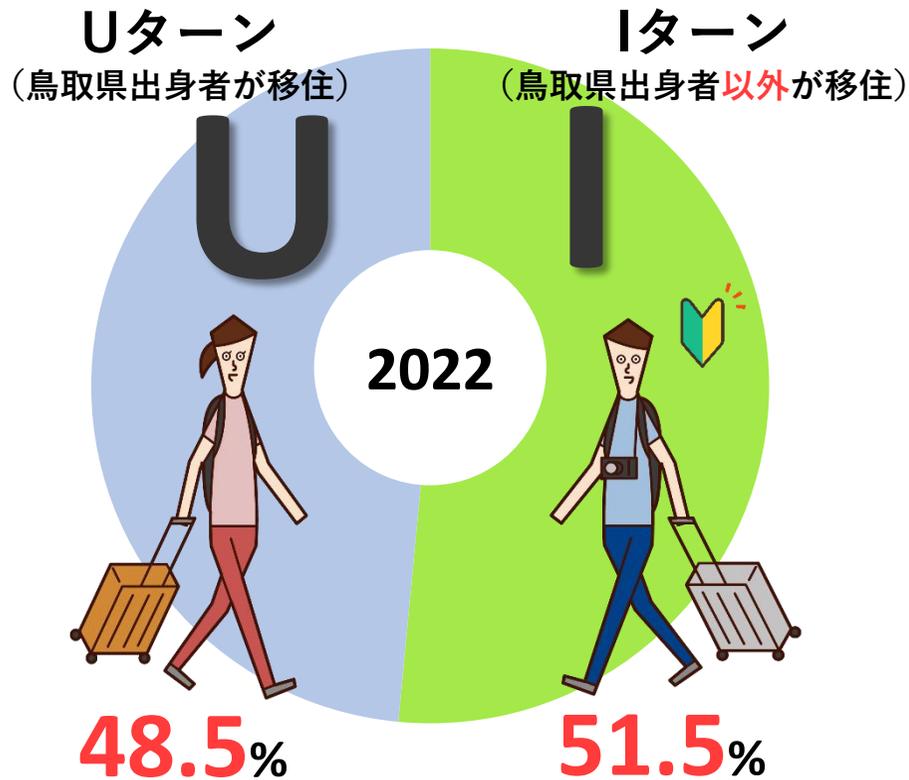
過去最多
2,368人



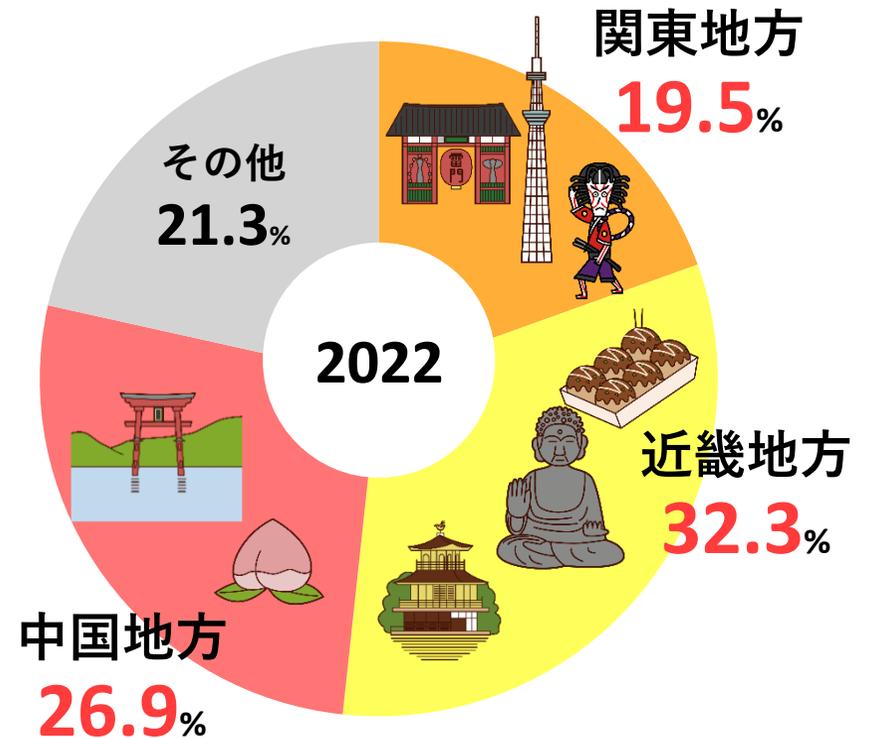
※ 鳥取県人口減少社会対策課「鳥取県への移住者数について」を基に作成

社会増減：移住者の属性①

Uターン率

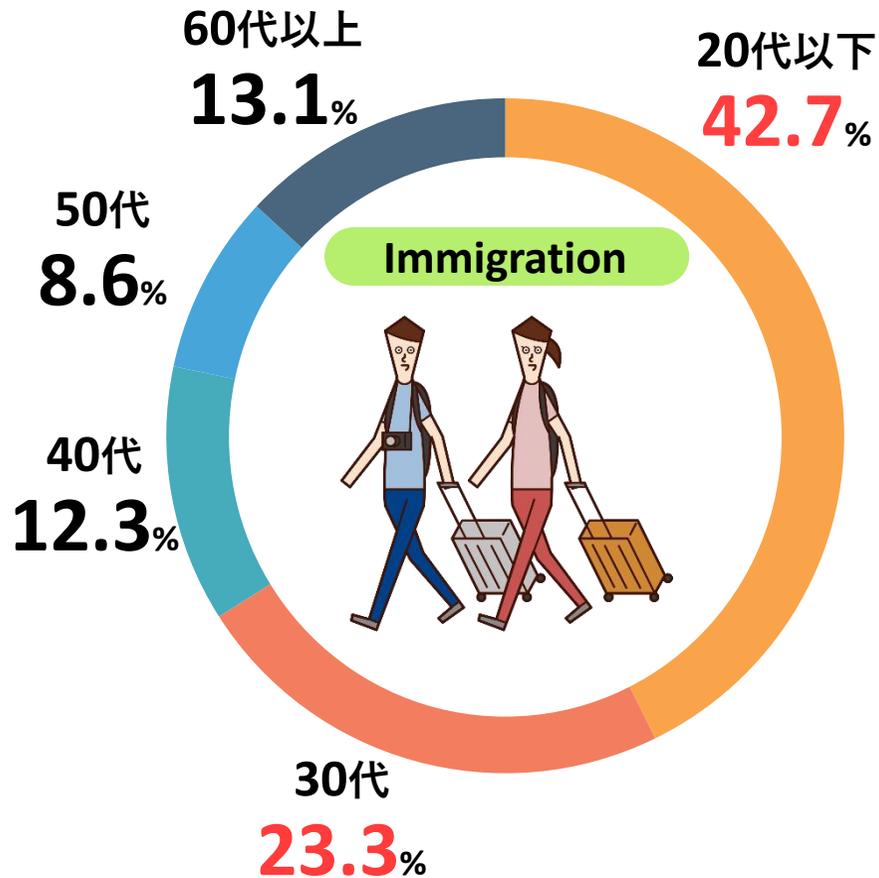


移住元地域

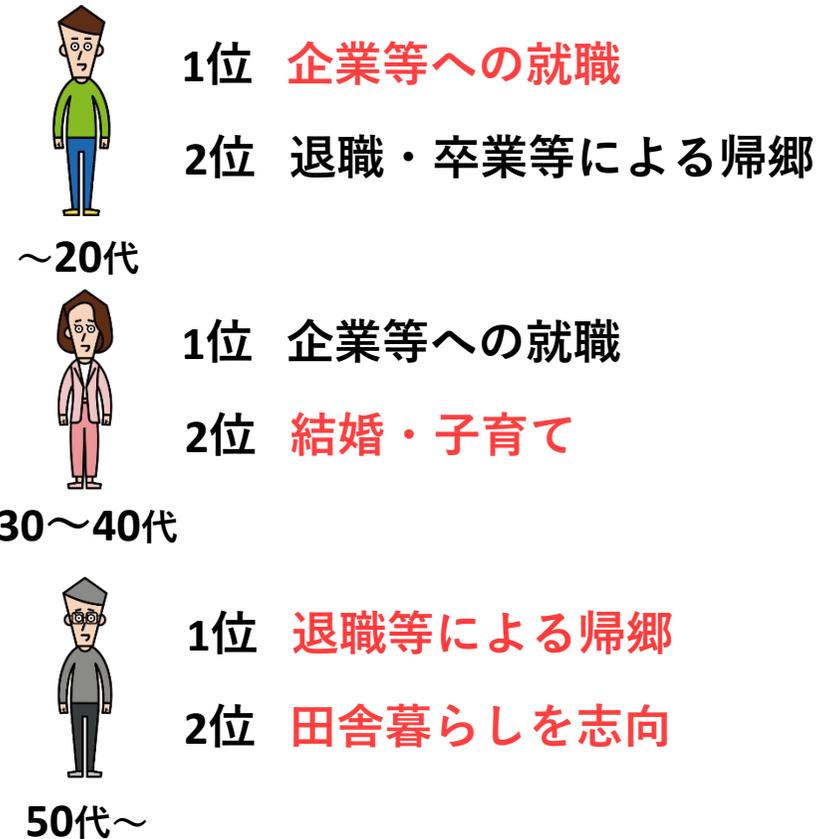


社会増減：移住者の属性②

移住者世帯の年齢構成（2022）



年齢別移住理由の上位（2022）



※ 鳥取県人口減少社会対策課「鳥取県への移住者数について」を基に作成

+ 人口減少対策に対応する事業の例

小児医療費
の助成

不妊治療の支援

移住相談窓口の
設置

空き家改修
の補助金

授業料の無償化

産後ケアの無償化

奨学金の返還助成

移住体験ツアーの実施

自然保育を行う
園の認証・支援

子育て応援
パスポート

先輩移住経験者
によるサポート

移住応援
メンバーズカード

婚活支援サービスの運営

副業・兼業
の普及

ワーケーション
の推進

育休取得を推進する
企業への奨励金

都市部での
移住イベントの開催

